

平成三十一年度 聖ドミニコ学園中学校入学試験（第二回）

国語 50分

◎ 次の注意事項（しごとう）を読んでください。

- 1 試験開始のチャイムが鳴るまで開いてはいけません。
- 2 問題は全部で9ページあります。
- 3 解答用紙は問題用紙にはさんであります。
- 4 解答用紙に受験番号、氏名を書いてください。
- 5 答えはすべて解答用紙に書いてください。
- 6 字数は、句読点（くつとちん）や「」をすべて一字に数えます。

【一】次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(問題作成の都合上、本文を一部省略・変更しています)

帰国後、中高生を教え始めてわかってきたのは、子どもたちが常に「正解」を求められて育ってきたことです。それも、できるだけ早く、たくさん「正解」を出すことで高い①ヒョウカを得られる環境です。

塾の教室で子どもたちに作文を書かせて、最初にもらった質問は「先生、正解は何ですか」でした。Aいきなり正解に飛びつき、覚え込もうとする学習スタイルに、強い違和感を抱きました。これまで②シドウしてきた学生や大学院生とのかかわりでは、何が重要か自分で考え、これを論理的に表現していくための作業をお手伝いするスタイルでしたので、最初は塾の生徒が何を求めているのか把握するところから始めなければなりませんでした。

B日本の小中高のカリキュラムは、大学入試をひとつのゴールとして設計されています。中学受験をしなくても、ほとんどの子どもが高校受験を経験しますし、大学受験も多くが経験します。つまり、大学に入るために、日本の子どもたちはゆるやかに長期間にわたって受験勉強を続けているわけです。

問題は、日本の入試が知識偏重型であるという点です。Cそうした試験に対応するため、勉強も③ヒツゼン的に「正解」をゴールとするものになります。

「は？ 正解を目指すのは当たり前じゃないか」、そう思われるのも無理はありません。ぼくたち親世代も、今の子ども同様、「正解」へ至る④ミチジユンを覚える学習法しか教えられてこなかった

のですから。①いきなり「正解」に飛びつこうとする⑤タイプは、クイズ大会ならいざ知らず、D実社会では使い物になりません。

学問や実業の世界での「正解」は、受験勉強で選択肢のなかから選ぶような「正解」ではないことが多々あります。いきなり正解に飛びつくのではなく、正解をみちびく過程や、失敗したときの対処法こそが大切なのです。正しいかどうかわからない、不確実性が高い場合にどのような判断をしたほうがよいのか、これも含めて考える力を⑥養っていかねければなりません。

生きていくうえで「正解がない」状況は頻繁に発生します。②重要な課題ほど正解がないことが多いのです。この「正解がない」状況というものは、いかなるものでしょうか。第一に、事実かどうか判断する材料に乏しく、正解かどうかわからない場合があります。第二に、価値判断に関わる問題については、判断する主体の数だけ正解がありません。

学問は常にaを続け、知識は常にbされ続けます。学問や科学がいかなる⑦営みかについてはおいおい詳しく説明しますが、いわゆる事実として受け入れられている知識には、さまざまな前提が伴います。「正解だから正解」のではなく、さまざまな検証や反論を乗り越えてきた学説だからこそ、「現段階で」最大公約数的見解として「正解らしい」と受け取られているにすぎないのです。昨日まで正解だったものが、今日は違うということが起こります。

③、国宝・源頼朝像。誰もが教科書で見たことのある京都守護寺所蔵の絵ですが、最近の教科書では「この肖像画は、源頼朝像と伝えられる」「伝源頼朝像」と保留つきの表記になっています。

ます。

実はこの絵に描かれた男性が頼朝であるかどうかは、以前から歴史学や美術史学の世界では疑義が出されてきました。一九九〇年代になって画像解析技術が進んだこともあり、どうやらこの肖像画に描かれているのは源頼朝ではなく、足利尊氏の弟、足利直義ではないかというのが定説になりつつあります。

他にも、「足利尊氏像」とされていた肖像画が、どうも尊氏の家来である高師直がモデルではないかという説が優勢になり、単に「騎馬武者像」と呼ばれるようになったり、十七条憲法を制定した聖徳太子が、実は実在していなかったのではないかという説が出て物議を醸すなど、日本史だけに限ってみても、かつて「F」「正解」として暗記させられていた知識の確かさが疑われるという事例は枚挙にいとまがありません。

これらの例から得られる⑧「キョウクン」は、いわゆる源頼朝像を「正解」として覚えることよりも、それがなぜ正解でなくなったのか、推論の過程を理解することこそが重要だということです。そもそも、教育の場で常識や正解として受け入れられている⑨「作法や知識のなかに」、学術的な根拠の怪しいものが含まれているかもしれないのです。④「学問には、その最先端に近づけば近づくほど、何が真理かは自明でなくなる」という一面もあります。

このようななかで、問われるべきは「正解とされてきたものは何か」ではなく、「正解という前提が崩れてしまったときに、どのように対処すればよいのか」ということです。それはとても苦しい営みです。答えはすぐには出ず、試行錯誤の連続でしょう。

G 日本の教育は、ある意味で最低限必要な常識を入手するために

は適しているのかもしれませんが、自分で深く物事を考えたり、世の森羅万象を理解するためにこれまでに存在しなかったものの見方をしたりするには、あまり適していないのではないかと感じるこ

とがよくあります。しかも、部活や習い事、塾や宿題で、子どもたちには「c」をする時間的・精神的な余裕はあまりありません。中学入試に参加することを決断した段階で、組織的に詰め込む努力を強いられるという点は、あらかじめ織り込んでおいたほうがよいと思います。試行錯誤自体を目的にする必要はありませんが、試行錯誤を「ユルす余裕がないと、ものを考える楽しみや苦しみが理解できません。」(斉藤淳『10歳から身につく、問い、考え、表現する力』)

注 イェール——アメリカのイェール大学のこと。

問一 線①「ヒョウカ」、②「シドウ」、③「ヒツゼン」、④「ミチジュン」、⑤「タイド」、⑥「養(つて)」、⑦「営(み)」、⑧「キョウクン」、⑨「作法」、⑩「ユル(す)」のカタカナは漢字に直し、漢字は読み方をひらがなで答えなさい。

問二 ① ④ に入る適当な言葉を次から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。(同じ記号は一度しか使えません)

- ア だから
- イ また
- ウ たとえば
- エ しかし
- オ むしろ

問三 — 線A 「いきなり正解に飛びつき、覚え込もうとする」とありますが、これとは反対の学習者の様子が書いてある部分を本文から24字でぬき出し、最初と最後の4字を答えなさい。

問四 — 線B 「日本の小中高のカリキュラムは、大学入試をひとつのゴールとして設計されています」とはどういう意味ですか。本文から40〜45字でぬき出し、最初と最後の4字を答えなさい。

問五 — 線C 「そうした試験」とはどのような試験ですか。「」の試験「」につながるように、本文から5字でぬき出しなさい。

問六 — 線D 「実社会では使い物になりません」とありますが、それはなぜですか。次の(1)〜(4)に入る言葉を本文からそれぞれ3字以内でぬき出しなさい。

(1) や (2) の世界での「正解」は、受験勉強の「正解」とは異なるものであることが多いので、正解をみちびく (3) や、失敗したときの (4)こそが大事だから。

問七 a、b に入る適当な言葉を次から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ア 進歩 イ 停滞 ウ 消去 エ 更新

問八 — 線E 「事実として受け入れられている知識には、さまたまな前提が伴います」とはどういうことですか。次の(1)〜(4)に入る言葉を本文からそれぞれ3字以内でぬき出しなさい。

今ある知識はさまざまな (1) や (2) を乗り越えてきたからこそ、(3) で「多くの人々に「正解 (4)」と受け取られているだけだということ。

問九 — 線F 『『正解』』として暗記させられていた知識の確からしさが疑われるという事例」とありますが、そのような事例は本文でいくつ紹介されていますか。「〜つ」につながるように、一、二、三…の漢数字で答えなさい。

問十 — 線G 「日本の教育は、ある意味で最低限必要な常識を手するためには適している」とありますが、逆に「適していない」のはどのようなときですか。次の I、II に入る言葉を本文からそれぞれ指定された字数でぬき出しなさい。

問十一 I (10字) たり、これまでに II (12字) をしたりするとき。 c に入る適当な四字熟語を本文からぬき出しなさい。

【二】次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

《ここのまでのあらずじ》桜丘さくらがおか小学校の運動会では毎年、六年生が組体操を行うことになっており、最後に全員でつくるピラミッドは「人間タワー」と呼ばれていた。

次の文章の**場面1**は人間タワーについて六年生が体育館で話し合いをしている場面、**場面2**はその後、青木と安田あした澯なはが二人で話している場面である。

場面1

国貞くにさだが立ち上がり、

「私も、反対です」

と、きつぱり言った。

体育館がざわめいた。温度が上がった気がした。

「理由は、四段ピラミッドの時も、上にのる子がいちいち踏みつけてきて、思いやりがないので、私たち下の子たちはいつも厭いやな思しいをしていましたし、すごく痛くて、人間タワーだとピラミッドより重たくなると思しいます。それで、このあいだは三組のピラミッドは崩くずれてしまったから、久本くもとさんは下の段だから痛いたかったんだと思しいます」

A 出煙でえんは頭にカッと熱あつい血ちが上あるのを感じた。

「上のやつだって、上にのるしかないんだから仕方ないだろう」

と、**①** 我われ知らず叫こゝろんでいた。

「どう考えても下の方が大変だろう」

四角い顔をゆがめて国貞くにさだが怒鳴どなり返した。その横から「そうだよ！」と佐藤さとうも**1** ように叫こゝろんだ。勢いきほいづいた国貞くにさだは、

「出煙でえん、いつもこっちの背中を**2** ようにしてのってんじやん。いてーんだよ！ こっちはやられつぱなしなんだよつ。下の人の気持きもちちなんか、考えたこともないじやん」

と言いった。そのとたん、出煙でえんの**②** マワリの、つまりは小柄こがらな児童こどもたちがいつせいに、

「は？ 何言なにってんですか!？」

「上うだつて大変たいへんだし、怖こわいし、みんなで少しずつ我慢がまんしてんだよ」

と出煙でえんに加勢かぜし、一いっ気に沸わき立たった。**イ**

B 出煙でえんの胸むねに、熱あついものがわいた。上にのる子こたちは、もう、最初はじから、仲間なかまだった。出煙でえんは仲間なかまたちに応援おうえんしてもらっている気がした。こんなに心がぞくぞく熱あつく**③** モエたのは初めてだ。

沖田おきた先生せんせいが壇上だんじょうから出煙でえんの名前なまえを呼よんだ。

「国貞くにさださん、呼び捨てはだめ。出煙でえんさんも、言いいたいことがあるなら手てを**④** 挙あげて。みんなも黙だまって。意見いけんがある人は挙手あがりてして、あてられてから発言はつげんしてくださいね。はい、出煙でえんさん」

そう言う沖田おきた先生せんせいのまなざしが、いつもより少し優やさしい気がした。

I 出煙でえんははつきりとそう分わかった。だから、堂々どうどうと立ち上がった。そして言いった。

「上にのる人も、高いし、怖こわいとか、いろいろ大変たいへんだけど、自分自分が上うにのる**⑤** ヤクワリだつて分わかっているから、頑張がんばつてのってるんです。下くだだけが大変たいへんだつて思しわないでください」

そうだ、そうだ、と誰だれかが言いってくれた。出煙でえんは、自分自分が緊張きんちょうせずにはつきり意見を言いえたことに少し驚おどろいた。いつだつて、人前ひとまへに立つとどぎまぎして、言葉ことばがつかえてしまつて、言いいたいことの半分はんぶんも言いえない。けど、今日は言いえた。**ウ**

出畑のマワリからたくさんの手が挙がった。

「わたしも、今の国貞さんの発言は自分が下だからっていばつてるように聞こえました」

「出畑くんに付け加えなんです、上にのる人も大変だし、怪我をしないようにがんばるのが組体操の意義だと思います」

「自分が痛いからやりたくないというのは自分勝手だと思います」
意見が飛び交った。

途中で国貞が泣き出した。出た、と出畑は思った。学校には暗黙の「泣けばいいルール」があつて、そのルールを使うのは決まつて女子だ。いつも男子を蹴つてきたり、ポウリョクのなくせに、ちよつとやり返すとすぐに泣く。こういう言い合いの時も、自分が不利になつたとたんに泣いてフセンショウに持ち込もうとする。狡いんだよ。

と思つたら、沖田先生が、

「泣いても仕方がないことだからね」

と言つてくれた。これが国会なんかだつたら「そうだ！ そうだ！」と叫んだらう。出畑は大いにスカツとした。エ

「でも、他のみんなも、個人攻撃する時間ではありませんよ。何か、言いたいことがある人は、手を挙げて、名前を呼ばれてから立ち上がつて発言すること。野次は発言とミトめませんよ」

沖田先生が言った。いつものやり方だから、一組の児童は心得ている。

近藤蝶が手を挙げ、沖田先生に指された。

近藤は立ち上がり、体育館の皆を見まわした。だから、何となく、みんなが静かになつた。いつも子分の女子をシタガえていばつて

いる近藤が何をしゃべるかによつて、この議論の流れが大きく変わると思った。出畑はどきどきした。近藤が、澄んだよくとおる声で話し出した。

「あたしは、タワーをやりたいです。理由は、去年の人間タワーが最後のほうで失敗したからです。見にきてくださった方が、みんな、がっかりしたと思います。うちのお母さんも、『来年こそは世界で一番の人間タワーを作つてね』つて言つてくれました。お姉ちゃんやお兄ちゃんにもそういわれました。皆が楽しみにしています。私は今年、絶対世界で一番のタワーを作つて、桜丘小の六年のケツリョクを見せつけたいです。そのためなら、もし国貞さんがどうしても一番下が嫌だつて言うなら、あたしが国貞さんと代わつてあげてもいいです」

一拍おいてから、わあつと拍手が沸いた。出畑も慌てて拍手した。手塚も拍手した。安田濡も、静かな目

のまま、音のない拍手をしていた。出畑は拍手の音量を必死で上げた。手が痛くなるくらい叩いた。

これはもう、すつげーの作るしかないじゃん！

世界一のタワー作るしかないじゃん！

「近藤さん、ありがとうございます。みんな、拍手、もういいよ」
沖田先生もともうれしかつたよう、
「早く練習しようぜつ」

「早く練習しようぜつ」
「4」というふう、手塚が言った。出畑も慌てて、「そうだよ、練習しようぜ」と叫んだ。

「分かつた、分かつたから」

沖田先生が静まれ静まれというふうには、手を上げ下げするジェスチャーをした。そうしないと声が聞こえなくらいに、体育館のボルテージは上がっていた。

場面2

「国貞がばかなことを言ったせいで、賛成派を勢いづかせたと思わない？」

青木は顔をしかめて言った。

「おまけに泣き出すしき。あいつ、デイベートのやり方、分かってないな。痛いとか重いとか、主観的なことばかり言うんじゃないか。て、IIとか、IIIとか、客観的な事実を言えれば良かったんだよ」

「そうかな。わたしは、どんな客観的な事実より、国貞さんの言ったことが、D人間タワーの本質をついていたと思うけど」

「あれが、本質？」

青木が薄ら笑いを浮かべた。

「うん。そう思う。国貞さんが『下は重くて痛い』って言ったなら、『上にあるのだから怖いんだよ』って言い返した子たちがいたけれど、『怖い』と『怖い』は別物だもの。『痛い』は肉体的なもので、『怖い』は精神的なものでしょ」

「だから？」

「その二つは比べられないっていうこと」

「そうかなあ」

「あとね、国貞さんが言っていたとおり、土台になる下の人は、上の人に、やられればなしだよ。何もできない。背中をぐらぐら揺す

るとかできるけど、それで方が一潰れちゃったら、自分の方が怪我するでしょ。だから、下の人は平たくて丈夫な背中をただ上の人のために差し出さなきゃならない。重くて、痛いの。でも、上の人は、自分の気持ちひとつで、どんなふうにものれるでしょ。思いやりをもってそつとすることもできるし、わざと踏みつけることもできる。上の人には選択肢がある。下の人にはそれが無い。圧倒的に、上にいる人が有利だよ。そういう仕組みになってるんだよ、人間がつくるピラミッドって」

E 青木が急に立ち止まった。青木はまっすぐ濡を見ていた。薄ら笑いが消えていた。

(朝比奈あすか『人間タワー』)

問一 線①「我知(らず)」、②「マワ(り)」、③「モ(えた)」、

④「挙(げて)」、⑤「ヤクワリ」、⑥「ボウリヨク」、⑦「フセンショウ」、⑧「ミト(め)」、⑨「シタガ(えて)」、⑩「ダシケツリヨク」のカタカナは漢字に直し、漢字は読み方をひらがなで答えなさい。

問二 次の文は、本文の「ア」のどこかに入ります。適切な場所を一つ選び、ア～オの記号で答えなさい。

味方がたくさんいると分かっていたからだ。

問三

1 4 に入る適当な言葉を次から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。(同じ記号は一度しか使えません)

- ア どんつて蹴^ける
- イ 目をふせる
- ウ 待つてられない
- エ 助け舟^{すねぶね}を出す
- オ ぱあつと光る

問五

—線 A 「出畑は頭にカツと熱い血が上るのを感じた」、線 B 「出畑の胸に、熱いものがわいた」とありますが、この二つの「熱い」はそれぞれ誰^{だれ}へのどのような気持ちによるものですか。次の (1)、(2) に入る言葉をそれぞれ 20 字以内で本文の言葉を利用しながら答えなさい。(ページ左の下書き欄^{らん}を使って考えてもかまいません)

問四

I に入る言葉として適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 沖田先生は人間タワーをやりたくないのだ
- イ 沖田先生は人間タワーをやりたいのだ
- ウ 沖田先生も人間タワーは危ないと考えているのだ
- エ 沖田先生も人間タワーは下の人が痛いと思うのだ

はじめの「熱い」は (1) によるもので、次の「熱い」は (2) によるものである。

問六

—線 C 「安田^{みよ}潨も、静かな目のまま、音のない拍手^{はくしゅ}をしていた」とありますが、ここからどのようなことが読み取れますか。適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 潨^{みよ}が人間タワーをすることに強く反対していること。
- イ 潨^{みよ}が人間タワーを作りたいと強く希望していること。
- ウ 潨^{みよ}が人間タワーを作ることそれほど積極的ではないこと。
- エ 潨^{みよ}が人間タワーを作り家族を喜ばせたいと考えていること。

問五 下書き

(2)	(1)
-----	-----
-----	-----
-----	-----
-----	-----
-----	-----
-----	-----
-----	-----
-----	-----
-----	-----
-----	-----
-----	-----
-----	-----
-----	-----
-----	-----
-----	-----
-----	-----
-----	-----
-----	-----
-----	-----
-----	-----
-----	-----
-----	-----
-----	-----
-----	-----
-----	-----

問七 Ⅱ、Ⅲに入る言葉として適当なものを次から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。(どちらが先でもかまいません)

- ア 組体操の事故が何件起きている
- イ 組体操が好きではない人もいる
- ウ 組体操は毎年おこなわれてきた
- エ ある自治体は組体操を禁止した
- オ 親もまた組体操に反対している

問八 — 線D「人間タワーの本質」とは、ここではどのようなことですか。本文の言葉を使って30字以内で説明しなさい。

問九 — 線E「青木が急に立ち止まった。青木はまっすぐ滯を見ている。薄ら笑いが消えていた。」とありますが、このとき青木の気持ちとして適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 静かだと思っていた滯が、するどく冷静な意見を言ったことに對する驚き。
- イ 自分が自信たっぷりに言った意見を、滯に反対されたことに對する悲しみ。
- ウ おとなしい滯が、自分にだけは本心を打ち明けてくれたことに對する喜び。
- エ 泣いてしまった国貞を思いやり、かばおうとする滯の優しさに對する感動。

問八 下書き

